

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 24 年度第 1 回情報教育研究委員会大学入試小委員会 議事記録

- I. 日 時：平成 24 年 6 月 25 日(月)午前 11 時～午後 12 時  
II. 場 所：私学会館（アルカディア市ヶ谷） 7 F 鳥海  
III. 参加者：村井委員長、笈委員、植原委員（Net）、久野アドバイザー、辰己アドバイザー、家本アドバイザー、渡辺アドバイザー  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 情報の大学入試についての検討

- ・ 情報の入試への課題について他にも検討しているが、文科省との働きかけ含めて、どのように進めるかを小委員会として検討することになっている。センター試験・私学の入試でどう扱うか。10年後に向けたどういうインプットをだすか。
  - ・ 3月に大学入試センター試験の出題教科・科目等(中間まとめ)に関する意見を提出した。
  - ・ 文科省に話をした時には、知識だけでなく、技術試験を含めてはどうか、道具、場をつくって判定する試験が必要ではないか、物理的な課題があるのではないかの意見があった。成人版学力テストや ICT 活用問題解決力テストなど例や会場の設備の問題に関連している。情報とコンピュータ（電卓）が直接イメージされている。
  - ・ 情報系で重鎮の先生方に賛同いただき、声明書に合意する形で出してはどうか。過去に情報系では政治的な働きかけは実施してこなかった。また、情報の先生含め、他の分野の先生や経団連や産業界など連携を考えてはどうかの意見があった。
  - ・ 目指すところは、①センター入試、②一般入試。
  - ・ 入試に入らなかった理由に、指導要領で小中高で教育していることになっている。教科情報で教える先生、準備できていなかったりあり、センター入試には合わないとの意見交換が当時あった経緯がある。大学入試の改革は、秋入試などもあり知識偏重では東大でも入学後に落ちこぼれがおこり、入試方式を変える必要があるのではないか。到達度試験の検討もされている。
  - ・ 2013年の過程とその先の科目で、それぞれの戦略が必要になってくる。
  - ・ 大学がなぜ、情報を入試にかけるのか声明を出すべきで、大学教育のためのメッセージが必要。
  - ・ 到達度が問題であるが入試のためのメッセージをだす。また、大学の先生の思いも把握する必要があるのではないか。
  - ・ それぞれの団体から発信する絵を描く必要があるのか。特性を活かして発信
- ・ 2部構成として、
- ① 小中高含めて情報の教育はどうあるべきか、課題と情報のモデルの認識、指導の問題、高大連携など
  - ② 大学からの要求、到達度、求める人材像、大学からのメッセージ、入試、大学としての要求条件などをアクションとしてメッセージをだすことから始めてはどうかの意見があった。
- ・ atc21s.org の 21世紀型スキルとしての達成度評価として情報スキルとしてまとめてはどうか案があった。また、評価機関をつくってはどうか、達成度評価のメカニズム、外部試験官制度など実現できないか。教養としての必要性和情報の取り扱いと道徳教育。知識試験と NET での口頭試験など実現できないか。
  - ・ まとめとして、①情報教育はどうあるべきか。②ATC21 ベースで情報教育の重要性を小中高で教育する必要、情報教育を推進すること。大学として到達度の条件「入試」「到達度認定」などをとりまとめる必要がある。
  - ・ その次に、教育の理想と高校生は受験のために受験産業をターゲットにした戦略として入試のメッセージが必要ではないか。

V. 次回の予定

- ・ 次回小委員会で、声明書（メッセージ）の案を持ち寄り検討することにした。
- ・ 次回小委員会 7月27日（金）9時から10時を予定。